



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 10月12日発行 第 16 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

北区の放射線対策・共産党区議団の奮闘でさらに一步前進！ 区が測定して基準こえたらすぐ除染を

●専門業者の再測定は省略してよい

9月21日に北区が報告した放射線除染基準について10月5日の区議会で更に改善が公表されました。0.25 μ Sv との基準で除染するまでに区の測定に加え、専門業者に再委託する仕組みについて、「費用と時間をかけるより怪しい場所は対策を優先せよ」との要望が実りました。

●きっかけは滝野川第三小の自主測定運動

滝野川第3小学校で、プール行事を前に区の測定器で校内を測定することになり、事前に父母が自主的に測ったところ、基準の4倍もの高濃度ポイントを発見。校長先生に要望して区に測らせた結果、やはり高い値が出ました。専門業者への委託より除染を優先するのは当然です。 <北区の除染を発表する区の広報>

●区議会での奮闘が実ってきた

区議会の定例会の中で、共産党区議団の山崎たい子区議などが、除染を急ぐことこそ子ども達や区民に余計な被ばくを防ぐ最大の道であり、費用も安いはずとねばり強く訴え改善が実現しました。

区議団はさらに学校・保育園給食などからの内部被ばくに実効ある対策を求めてがんばる決意です。

JR のホーム柵 17年まで山手線、その後10万人以上の駅優先で設置 10月11日にそねはじめ前都議らが全駅設置を申し入れ



ホームに転落防止の稼働柵を設置する国の方針が出たのを受け、鉄道会社の対応を求め都議団が申し入れを行いました。

そねはじめ前都議は大山都議と、JR東日本本社を訪ねました。JRは2017年までに山手線各駅に設置、埼京線などはその後になるとしました。そね前都議は「乗降客10万人の基準にこだわらず全駅設置を急ぐこと」「車両ドアの違いは技術的に対応可能になる」ことを強調。JR安全企画部島田課長は「工期をさらに短縮し」「早く安く設置できる技術を採用する」と約束しました。

<写真はJRに申入れるそね前都議と大山都議>

10月10日は野口邦和氏、11日は松井英介氏を講師に学習会 放射能からいかに区民の健康を守るか

10月に、北区の共産党で相次いで放射線問題の学習会を開催しています。10日の滝野川東区民センターでの学習会では日大講師の野口邦和氏を講師に、福島原発の現状と今後の東京や北区などへの放射線の影響についてまなび、約60人が参加しました。野口氏は「福島でも除染は効果的」「野菜等の食品はよく洗って調理する」「海洋の大型魚には汚染は広がらない」と冷静な対応を強調。

11日の岐阜環境医学研所長の松井英介氏は、「原発被害の実態は想像以上に深刻と捉えるべき」「早期に食品についての測定体制を整備するよう国や自治体への働きかけが大切」と訴えました。



<写真は11日、北とぴあでの松井氏の講演のようす>

浮間スーパー堤防を、田村智子参議員が調査

「堤防崩壊から3度も水害が・・・」との住民の怒りを聞く



8月26日、台風の影響で集中豪雨があり、荒川そばの浮間1丁目にスーパー堤防からの雨水がふもとの住宅街を襲い。車などに被害を出した水害事故について、日本共産党の田村智子参院議員が現地調査に訪れ、そねはじめ前都議、永井朋子区議が同行しました。被害を受けたAさんは「七年前に堤防が崩壊し、修理してから急に水害が起き出し3回目です」「国の設計で雨水が全部住宅街に集まるようになった」などと切実な声が寄せ、田村議員は「国の責任を全力で解明します」と約束しました。

● 区議団主催の内部被爆問題学習会
*11月23日 13時半赤羽会館
矢ヶ崎克馬氏(琉球大名誉教授)。

<写真は堤防を調査する左からそね前都議、田村智子参議員、被害を受けたTさん、ながい区議>

そねはじめ交友録<その十> “本多公栄先生の伝説の授業”

20歳にもう一度出会う 私の人生を変えた

北大での人形劇サークル活動の合間に、安保問題や「教科書検定は違憲」と断じた家永裁判の杉本判決などを巡る論争の中で、天邪鬼な私が傾倒したのが三島由紀夫でした。

卒業アルバムに載った本多公栄先生



その三島が晩秋に自衛隊東部方面総監部に突入し自決したのです。

空白感を味わいながらぶらついていた大学生協の書棚で、懐かしい

「本多公栄」の名を見つけ開いてビックリしたのが「歴史教育の理論と実践」。そこには5年前に文京2中で受けた本多先生の授業がどういう目的と狙いで行われ、生徒はどうこたえたかが歴史教育者協議会（歴教協）創始者の一人である本多先生自身によって詳細に論じられていました。

それは日本が侵略した中国やフィリピン、インドネシアなどの国々の教科書で日本軍の残虐な蛮行がリアルに描かれているのを学んだ後、そのアジアの中学生に手紙を書けという問題でした。

しかもその本には私の書いた答案が例文としてのもっており「日本人の中に少数だが命がけで戦争に反対した人がいたことも知って欲しい」とありました。（本に紹介した生徒名を「曾根和雄」としたのは、編集当時私と連絡が取れず、本多先生の編集を手伝っていた同級生O君の下の名前を使ってぼかしたということは後に聞きました。）

その瞬間、中学生当時の歴史の授業がふつふつとよみがえったのです。「そうだ、本多先生は歴史を動かしてきたのは為政者の力に見えるが、実はそれを支えていた民衆の力が原動力なんだと教えてくれた」・・・

その頃から次第に大学での共産党の活動に惹かれていくようになっていました。

<今回だけその十一に続きます。>

北大生協で発見し購入した初版の「ぼくらの太平洋戦争」と「歴史教育の理論と実践」、最近後継者が著した「新ぼくらの太平洋戦争」

